

シグマ研究委員会昭和59年度第1回運営委員会議事録

日 時 昭和59年4月13日(金) 13:30~17:30
場 所 原研本部第5会議室
出席者 原田(委員長, 原研), 白方(動燃), 梶山(東北大),
中沢(東大炉), 中嶋(法大), 村田(NAIG), 五十嵐, 菊池,
長谷川, 松浦(原研)
オブザーバ: 飯島, 川合(NAIG) 北沢(東工大),
松延(住友原工), 鹿園, 松本, 浅見(原研)

配布資料

1. 前回(59.2.24)議事録(案)
2. 核データ評価WG 実験法評価サブWG資料
3. " 中重核データサブWG資料
4. " 重金属核データサブWG資料
5. " 重核データサブWG資料
6. " ガス生成核データサブWG資料
7. FP核データWG資料
8. ガンマ線生成核データWG資料
9. 核融合核データWG資料
10. ファイル作成WG資料

議 事

1. 前回議事録確認
資料1により確認を行った。
2. 事務局報告
 - (1) 59年度本委員承認手続き: 59年度本委員の運営委員会案に関し, 郵便で賛否を問うた結果および付帯意見について説明があり, 投票は諾29, 否1, その他2, 未返事2で承認されたことが報告された。付帯意見の主なものはNAIGからの委員が3名なのは多すぎることに, 東工大の委員がいないこと

と、運営委員の追加推薦等であった。このため、本委員や運営委員の若干の変更を検討することにし、その案を次回の本委員会で提案することにした。

(2) 59年度予算：本年度のシグマ研究委員会の旅費、印刷費、会議費の配算額について報告があった。

3. NEANDC 第24回会合報告

五十嵐氏から先日、東海研で行われたNEANDCの第24回会合について報告があった。いくつかの宿題を果すのに多くの人の協力が必要で、とくに、1988年または1989年の核データ国際会議開催を受け入れるかどうかについて国内的な意見統一を行う必要があること、また、次回NEANDC会合に非公式ながら回答する必要があるとのことであった。

4. 原子力学会関係報告

梶山氏から原子力学会の企画委員が任期切れになるに伴い、後任は村田氏（NAIG）になる予定であるとの報告があった。また、学術会議の学術情報連絡委には岩田氏（東大工）が指名されたとのことである。

5. 核データ研究会

原田氏からアジア地域の人々を含めた核データの研究会に関して次のような説明があった。59年度の実行予算で要求していたアジア地域核データセミナー開催費は通らなかったが、そのような主旨の会合は積極的にやってくれとのことなので、例年の核データ研究会にアジア地域の人々を加えて行うことにし、そのための予算を何とか捻出したい。中国、韓国、インド、オーストラリアへ連絡をとるに当たって、核データ研究会の期日、テーマを早急に決めて欲しい。

これに関して、上記4カ国以外にも連絡をとることの可否、テーマ等について討議が行われ、次のようにすることにした。

- 期日は11月13日（火）、14日（水）、15日（木）とする。
- テーマには「各国の核データ活動報告とアジア地域の核データに関する協力」、「データ評価」、日本としては「JENDL-3の評価とベンチマークテスト」を採り挙げる。

- 外国への連絡先は原田氏に一任する。
- 準備委員長には五十嵐氏が当ることにし、委員会の構成等については一任する。

6. 本委員会準備

五十嵐氏から、この際本委員会の在り方、本委員会と運営委員会との関係等を再検討したい。これに関連して内規も再検討したいとの説明があり、討議を行った。主な意見は次の通り。

- 運営委の情報がWGになかなか伝わらないので、運営委の構成が片寄らないことが必要。
- 本委員会は年1回で、セレモニイ化している。
- 本委員会はセレモニイでもよいが、運営委を強化する必要がある。
- 運営委に作業当事者の参加が必要である。
- 委員会を多くつくってもダメである。議事に事務的なことと技術的なこととがあるので、運用でうまくやれないか、各委員の役割を明確にして sub committeeを組織して解決していったらどうか。
- 運営委員に特別のテーマを課するようにした方がよい。
- このような問題を専門部会でも検討して欲しい。
- 本委員の数を減らし、運営委員会を止めて本委員会を多数回開催する方向にしたらどうか。
- 諮問調整委でも検討して欲しい。

なお、本委員会の期日は6月14日（木）とすることにし、議題等は次回に検討することにした。

7. WG58年度活動報告と59年度計画（各WGとも報告の詳細は省略する。）

(1) 実験法評価サブWG

村田氏から資料2により、重核データの同時評価のために58年度に行った実験データの共分散推定法の検討の説明があり、今後は重核データサブWGと連絡をとりつつ実験データの共分散推定法の確立を計る。また、実験法の調査結果を報告書にまとめるとの話があった。

これに対して、重核データサブWGとの関連、合同でやる会合の具体的な

進め方、重核以外の核の共分散データの扱い、同時評価におけるスタンダードの扱い等について討議があった。

(2) 中重核データ・サブWG

菊池氏から資料3により、58年度に行ったJENDL-3PR1用データの整備作業の概要ならびに59年度に行うJENDL-3用データの評価の進め方、それに関連するGNASHコードの整備等について説明があった。

これに関連して、川合氏から最近Young氏からGNASHの新版を入手したことの報告とともにその説明があり、質疑応答が行われた。

(3) 重金属核データ・サブWG

松延氏から資料4により、58年度の評価作業の進捗状況ならびに59年度の予定について説明があった。その中で本サブWGの存続についての討議についても説明があった。

これに関連して似た作業を行っているWGとは一緒に作業を進めた方がよく、ガンマ線のWGとの関係はどうかとの質問があり、ガンマ線生成核データWGで重い核の評価（fissionを除く）の方針はほぼ決まっていることからこの点に関して両WGで話合ってもらうことにした。

(4) 重核データ・サブWG

中川氏に代って菊池氏から資料5により、重核の同時評価に向けて進めている準備状況ならびに今後の予定について説明があった。

これに対して、共鳴パラメータの共分散はどうするのか、このサブWGで扱う重核の範囲などの質疑応答とともに、共分散データの扱い、積分データによるチェック、共鳴パラメータの検討等について討論があった。

(5) ガス生成核データ・サブWG

飯島氏から資料6により、58年度に行ったTHRESH2コード及びGNASHコードの整備、Q-値表の作成作業ならびに59年度に行う予定の入力データ作成用コードの整備、断面積の系統性の検討、入力用パラメータ値の評価等についての説明があった。

これに対して、他の反応の評価との関連について議論があり、他のWGが行っている評価作業との整合に十分留意して欲しい旨の意見が出た。ま

た、GNASHコードの改造について要望があるので、関係者の間で検討会を開き対処することにした。

(6) FP核データWG

川合氏から資料7により、JENDL-2 FPライブラリ作成作業の進行状況とともに、今後は遅れている共鳴パラメータの評価作業を最優先でやること、積分テストの準備、JENDL-3のためのFPデータの拡充等について説明があった。

これに対してFPライブラリ作成作業の進捗の細部についての質疑応答が行われた。

(7) ガンマ線生成核データWG

北沢氏から資料8により58年度の評価作業の現状及び計算プログラムの整備、59年度の評価作業予定について説明が行われた。

これに関連して、ガンマ線生成核データ評価の委託研究の現状、ガンマ線生成データと他データとの consistency 等について質疑応答があった。

(8) 核融合核データWG

神田氏に代って浅見氏から資料9により、58年度に行ったJENDL-3PR1用の軽核とくに ^{16}O の評価作業の概要ならびに今後行う ^{14}N データの評価、DOX測定データの収集等について説明があった。

これに関連して、核融合炉・遮蔽定数WGとの関連等について質疑応答があった。

(9) ファイル作成WG

浅見氏から資料10にもとづき、このWGの目標とともに58年度作業の概要、59年度作業予定について説明があった。

この中で、ファイル作成WGは核データ専門部会内のWGとするよりも核データセンター直属のWGとする方が妥当であるとの説明があり了承された。JENDL-3評価の分担表に関連して、JENDL-3で再評価の必要のないものを決めておく必要があるとのコメントがあり、このWGで粗案を作成し各WGへ配布することにした。

次回は5月11日（金）午後 東海研で行う予定